

1. 改定の目的

厚木市の里地里山は、現在、農家等の地域住民や活動団体などによって、保全されています。

市では平成27年3月に里地里山の保全、活用の促進を図るため、平成27年度から6年間の計画期間で「里地里山保全等促進計画」を策定しました。計画の運用から5年が経ち、里地里山の保全では活動団体の高齢化や後継者育成などの課題が生じています。

また、過去には生産の場であった里地里山も、時代の流れと共に求められる役割が変化しています。

時代	求められる役割	補足
昭和初期まで	生活と食糧、資源生産	生活を営む上で、意図せずとも物質の循環機能が働いていた。
昭和中期～後期	効率重視の食糧、資源生産	農地開発と衰退地の両極化を招いた。生産性の低い奥地は荒地化、圃場整備地では環境の単一化が進んだ。
平成	多面的機能の発揮	生物多様性の保全、地球温暖化の防止、環境学習・自然体験の場といった機能が再認識された。
令和	地域循環共生圏の場	再生可能エネルギーの生産、観光利用、健康利用、SDGsの実現等、新たなニーズが生まれている。経済的な自立も目指す。

そこで、計画の最終年度となる今年度、「里地里山保全等促進計画」を改定します。改定にあたっては、現行計画の進捗管理で示されたPDCAサイクルのC（チェック）とA（改善）が重要となります。この検討・議論のための本資料を整理しました。



図の出典：厚木市里地里山保全等促進計画（平成27年3月 厚木市）

C(チェック)とA(アクション)のために必要な情報

No	必要な情報
1	土地利用の状況
2	県・市の上位計画・関連計画との関係
3	里地里山保全活動の状況
4	成功事例・先進事例
5	生物多様性（代表種、絶滅危惧種、外来種）
6	里地里山の資源（観光、教育等）
7	保全活動と感染症対策（コロナウイルス等）
8	再生可能エネルギー発電施設の状況

注) 1～4は本資料に概要を掲載、5～8は今後調査予定。

2. 基礎調査結果

2.1 土地利用の状況

1) 市全域

市域の里地里山に関する土地利用の状況は、近年5ヵ年では以下の傾向となっています。

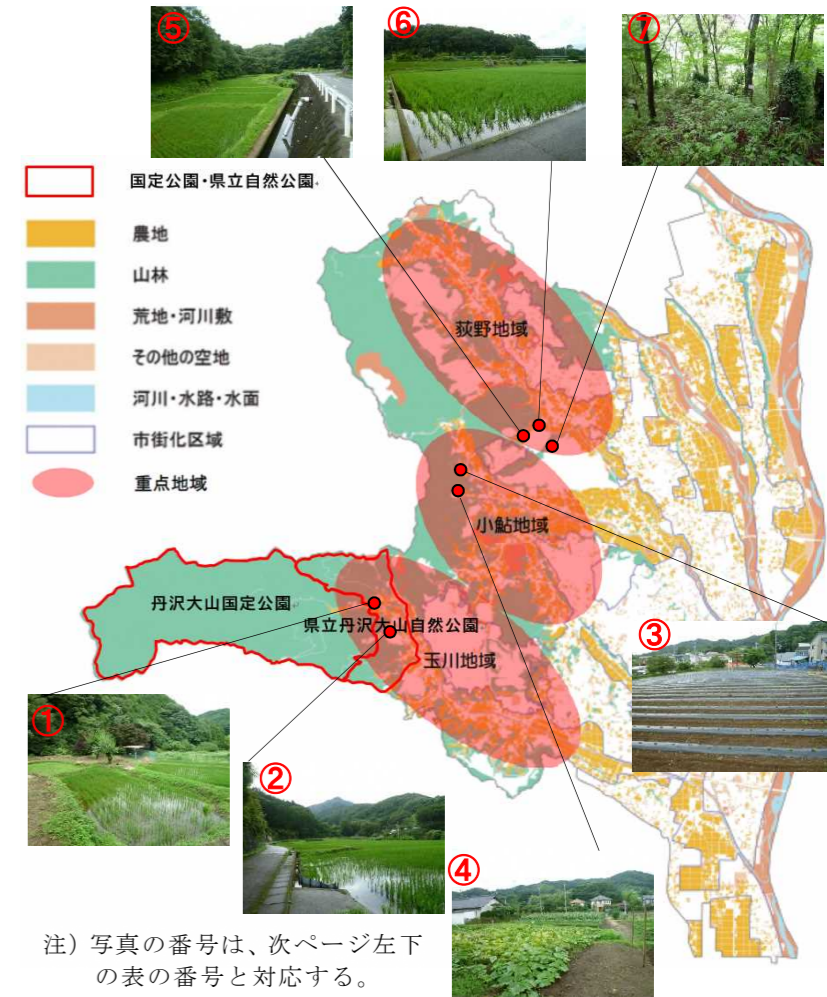
- ・水田や畑の農地利用は2～4%減少
- ・広葉樹林は、横ばい
- ・竹林は、4%増加
- ・遊休農地は、15%増加

2) 重点地域

遊休農地は、水田と同程度の面積であり、里山環境の衰退が想定されます。

単位：ha

調査年度	水田	畑	遊休農地
2015年	50.1	74.1	49.6



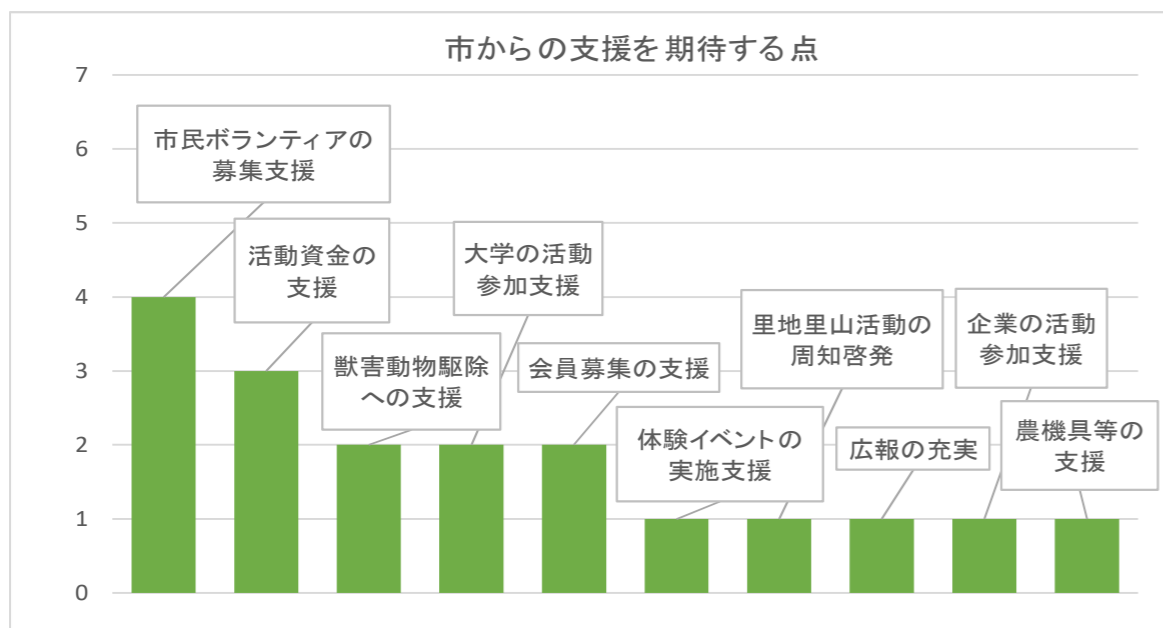
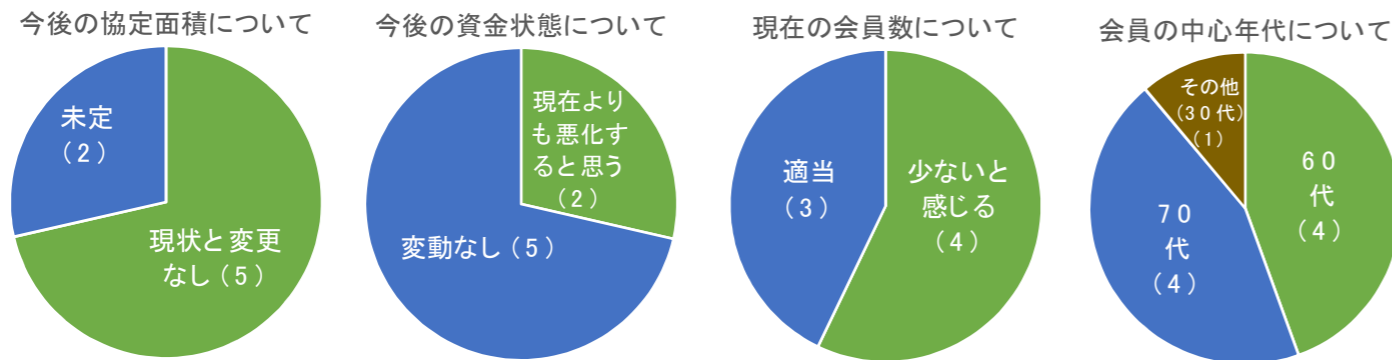
2.2 県・市の上位計画・関連計画との関係

計画の改定にあたっては、県や市の上位計画との整合性や関連計画との相乗効果（マルチベネフィット）に向け、表に示す内容を加える検討をします。

No	反映を検討する内容	根拠	
		計画名	分類
1	SDGs（持続可能な開発目標）やESD（持続可能な開発のための教育）の取組への活用	かながわ里地里山保全等促進指針（神奈川県）	関連計画
2	未病の改善※への活用 ※：神奈川県では、未病を、「健康」と「病気」の間の変化の過程の状態としている。		
3	ホームページやフェイスブックによるイベント情報の発信		
4	都市住民等の里山保全等への参加の促進		
5	活動団体相互の連携の強化		
6	大学、研究機関等との連携による調査・研究の推進		
7	生物多様性に配慮した自然地やレクリエーション施設等の施設緑地と地域住民の日常生活の場としての環境整備		

2.3 里地里山保全団体の意向

里地里山保全活動を実施する団体に依頼したアンケート調査の結果を以下に示します。



アンケートのご協力ありがとうございました

<やりがい>

- ・ボランティアの方からの感謝
- ・里山の保全
- ・地域との連携
- ・農業体験・自然とのふれあい

<課題>

- ・高齢化と会員数の減少
- ・鳥獣被害

<解決事例>

- ・収穫物の食事会やカフェタイムによる保全意欲の向上
- ・鳥獣被害対策としての電気柵設置

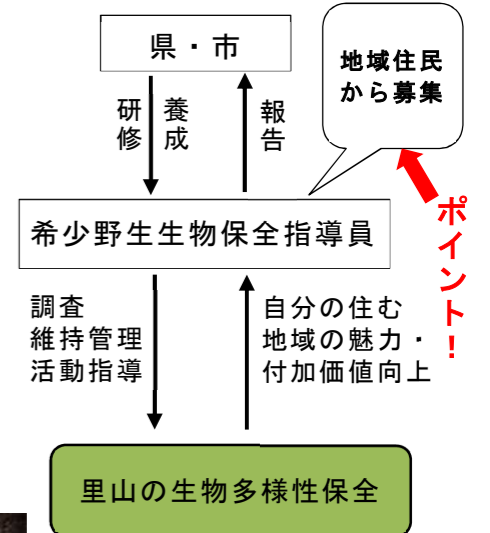
No	活動団体名称	地域	協定地利用別面積 (m ²)				
			田	畑	雑種地	山林	宅地
①	七沢里山づくりの会	玉川 (七沢)	2,252				
②	NPO法人里山ネット・あつぎ	玉川 (七沢)	3,889	7,502	160		
③	みどりと清流のふるさと創造委員会	小鮎 (飯山)		4,925			
④	飯山農楽校	小鮎 (飯山)		5,825			
⑤	荻野三つ沢の里山を守る会	荻野 (上荻野)	3,888			3,162	
⑥	NPO法人ゆめのシステムプロジェクト	荻野 (下荻野)	5,250				
⑦	NPO法人グリーン成長桜	荻野 (中荻野)				22,917	462.8

2.4 成功事例と先進事例

1) 成功事例

福井県越前市：活動の中心となる人材・指導者の育成

地元住民を「希少野生生物保全指導員」として養成しています。この指導員は、地域の希少野生生物の調査、生息地維持管理、盗掘・捕獲等の監視と、自然体験活動を実施します。地元住民が調査・監視・指導力を身につけることで、自立的な地域保全につながります。指導員は、希少野生生物の生息環境の調査や維持管理方法を、座学や実習で1年間学びます。研修後は、定期的に自分の集落の調査結果を報告し、市が取りまとめています。



写真の出典：環境省 HP (<http://www.env.go.jp/nature/satoyama/jirei.html>)

熊本県：事業者との連携による活動

JR九州では、年間を通じて「JR九州ウォーキング」(参加費無料)を開催しています。そのコースの見どころの一つに、里山があります。参加者は、伐採竹から竹炭・竹酢つくる活動団体の見学や、里山フェスタ*を楽しむことができます。里山が資源となり、観光と保全活動を活性化させています。

*里山フェスタとは毎年秋に開催され、里地里山の保全の必要性や恵みの豊かさを普及・啓発するイベント。コース中に竹ドームや環境コンサート、環境クイズ、生きもの探し等を実施。

出典：環境省 HP (<http://www.env.go.jp/nature/satoyama/jirei.html>)

2) 先進事例

神奈川県相模原市：SDGs と大学の協力

相模原市の青根地域では、麻布大学の学生が地元住民と共に活動しています。

この活動は、SDGs を研究する学生が、地元コーディネーターの協力を得て、始まりました。過疎が進み耕作放棄された水田の復活を目指し学生が耕すこと、生物多様性の調査、体験的にまちづくりの再生を進める機会が、実践的な学習となっています。

活動の重要ポイントは以下です。

- ・学生が中心となり、自分たちで主体的に活動していること
- ・地元コーディネーターの存在と熱意があること
- ・地元住民が、活動を受けいれていること

この活動で、朝日新聞主催「大学 SDGs Action! Awards 2020」の「スタディツアー賞」を受賞！



出典：国立研究開発法人 科学技術振興機構 HP (https://www.jst.go.jp/sdgs/practices/p081.html) 出典：麻布大学 HP (https://www.azabu-u.ac.jp/topics/2018/1116_20752.html)



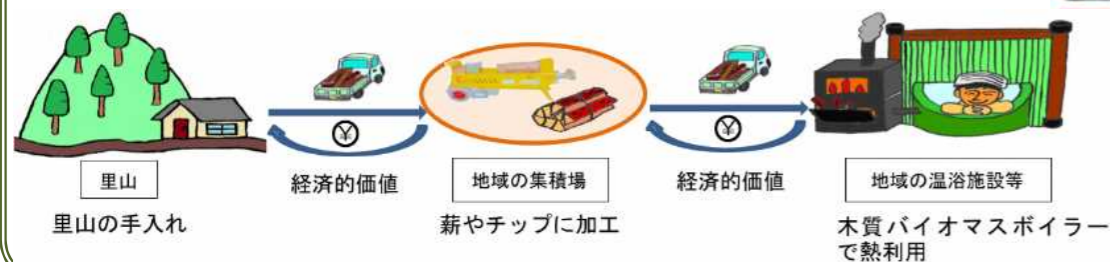
広島県：里山バイオマス利用促進事業

里山の手入れにより発生する未利用材を、バイオマス燃料として地域内で活用しています。

県は、バイオマス利用を検討する市町村へ専門家を派遣し、計画づくりを支援しています。実施された例は以下です。

例①：地域の温浴施設等で熱利用

例②：薪に関するイベントの開催（薪割機による実演や薪を使った焼きたてピザの実演販売、焚火体験等）



出典：広島県 HP (https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/satoyamabio.html)

3. 改定にあたっての今後の追加調査・とりまとめ方法

計画の改定にあたり、新たな課題等、現在情報が不足している情報を以下の表に整理しました。これらの項目を、今後調査する予定です。

項目	調査方法	内容
生物多様性評価	アンケート	市の郷土博物館や保全団体の皆様に、生物情報（絶滅危惧種・外来種等）を得るためのアンケートを実施します。
里地里山の資源	アンケート 現地踏査	観光、教育、未病改善等、多面的に利用できる里山の資源を把握するためアンケートを実施します。
保全活動と感染症対策	資料調査	保全活動における健康面の新たな課題として、新型コロナウイルス・熱中症対策に関する国や県の方針、公園等の対策実例を整理します。
再生可能エネルギー発電施設の状況	資料調査	食料生産に代わる新たな経済活動として、ソーラー、バイオマス、小水力等によるエネルギー生産と里地・里山との共存を、事例調査から検討します。

取りまとめにあたっては、「見える化」を重視します。例えば、得られた情報から3つの重点地域（又は7つの保全団体）のデータシートを作成し、現状と将来目標を分析・評価する等を検討しています。

見える化イメージ

